様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 ２４ 日現在

機関番号：３２６８０
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｈ０２６４６

研究課題名（和文）性暴力被害者への継続的支援－急性期支援プログラムおよび精神鑑定ガイドラインの開発

研究課題名（英文）Continued Support for Victims of Sexual Assault :Developing Acute Support Programs and Psychiatric Assessment Guidelines in Forensic Settings

研究代表者
小西　聖子（Konishi, Takako）

武蔵野大学・人間科学部・教授

研究者番号：３０２５１５５７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,600,000円

研究成果の概要（和文）：性暴力被害者のPTSD急性期治療補助プログラム「SARA」は被害者がスマートフォンを使用して、1人でも行えるPTSDや性被害に関する心理教育ウェブプログラムである。性暴力被害者支援ワンストップセンターと連携した精神科クリニックで、SARAの実行可能性、安全性、また単群前後比較での症状軽減効果を検証した。
また、性暴力被害者のトラウマ体験にかかわる刑事民事の精神鑑定が少しずつ増えていることから、これらの鑑定の実態を調査し、鑑定のガイドラインを作ることを目指した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
ここ数年、日本でも性暴力被害に社会の関心が向けられ、表に出ることのない被害が数多くあることが分かってきた。性暴力被害は、他のトラウマ体験と比べて高率にPTSDをもたらすことが分かっているにもかかわらず、その診断や治療、ケアが実証に基づいて行われているとは言い難い状況がある。ワンストップセンターと連携し、精神科外来に来所した性暴力被害者が自分で扱える心理教育ウェブプログラムを開発したことは社会的意義を持つ。また性犯罪、性暴力が裁判で扱われる中で、ＰＴＳＤ等に係る精神鑑定も増えてきたが、まだ手法が確立されているとは言い難い。この状況をまず実証的にとらえることがもう一つの学術的社会的意義である。

研究成果の概要（英文）："SARA" is a web-based treatment assistance program for sexual assault victims in the acute phase of PTSD, providing psycho-education regarding PTSD symptoms which could be viewed on the victim’s smart phone. The safety and feasibility of SARA was examined, along with the effectiveness of SARA was analyzed by comparing the pre and post results in a one-armed group. The aim of SARA was to reduce PTSD symptoms of those in the acute phase to the chronic phase, and to assist the introduction of evidence-based treatments to the victims. The subjects were recruited from a psychiatric clinic in collaboration with the rape crisis center for sexual assault victims. In addition, there has been a gradual increase in the number of psychological assessments for sexual assault victims with PTSD in criminal and civil cases. We investigated the current state of these psychological assessments from multiple perspectives, with the aim of creating a forensic psychiatric guideline.

研究分野：精神保健、臨床心理学、被害者学

キーワード：被害者　PTSD　性犯罪　性暴力　心理教育　精神鑑定　PTSDに焦点化した認知行動療法

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様 式 Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）
研究成果報告書［C-19］

１．研究開始当初の背景

性暴力被害は被害者に深刻な影響を与えることは、今では国際的にも広く理解されている。米国の全国疫学調査（Kessler et al., 1995）では、レイプ被害者の PTSD 生涯有病率は約 50%であり、事故、災害などの外傷的出来事よりも著しく高い。我が国でも性暴力については潜在する被害が多く、その深刻な影響もまた潜在化してしまっていることが推測された。

主任研究者は PTSD を中心とする性暴力被害者の診療や支援に長年にわたってかかわり、研究を行ってきたが、2012 年から、同年東京に設立された性暴力救援センター東京（SARC 東京）と連携して性暴力被害者の精神科診療に取り組むようになった。主任研究者らの研究においては、ワンストップ支援センターから紹介されて精神科に来所した分析対象者 14 名の平均年齢は 24.1 歳（標準偏差 6.32 歳）であり、ASD または PTSD り患者（PTSD 疑いを含む）は 11 名（78.6%）であった。(淺野ら, 2016)。PTSD にり患していると他の精神障害の併存や社会機能低下の可能性が高まり、被害者に与える有害な影響が大きい。したがって、被害後早期に介入し、PTSD 症状を改善することは、被害者の長期的な精神健康および社会機能の改善に大きく寄与すると考えられた。

また同時期、法的側面においても変化があった。110 年ぶりといわれた性犯罪に関する刑法改正が 2019 年に行われたが、研究当初の時期はその改正検討の議論がさかんに行われていた。それまで性犯罪被害者の心理や行動が、司法の専門家に理解されていたとはいい難い。このため、司法手続きへの参加は、被害者にとって過酷なものとなり、PTSD 症状の遷延化や社会機能低下等の有害な影響を与えるような二次被害となりがちだった。

このころから被害者の心理や被害の精神的影響について精神鑑定が行われ、主に PTSD の診断評価等が行われるようになった。最高裁において平成 24 年に初めて、PTSD という精神機能上の傷害が、刑法上の傷害に当たることが肯定された（最高裁, 2012）が、主任研究者はその事件の精神鑑定を担当し、以後多くの被害者の鑑定にあたってきた。しかし、性犯罪被害者の精神鑑定の歴史は浅く、鑑定例の報告や議論は十分とは言えない（橋爪ら, 2008）状況にあった。したがって、性暴力被害者に頻発する PTSD、解離症状などの精神症状や被害者心理を踏まえた上で、被害者に二次被害を与えることなく被害者の精神鑑定を行う専門的知見を確立する必要があると考えられた。

引用文献

淺野敬子, 平川和子, 小西聖子. (2016). 性暴力被害者支援の現状と課題 : ワンストッ

プ支援センターと精神科医療の連携に関する報告から. 被害者学研究 (26), 37-52.

橋爪きょう子, 辰野文理, 中島聡美. (2008). 精神科医による犯罪被害者の診療と法的な問題に対する関与--全国精神科医療機関調査から. 司法精神医学 3(1), 20-28.

Kessler, R. C., Sonnega, A., Bromet, E., Hughes, M., & Nelson, C. B. (1995). Posttraumatic stress disorder in the National Comorbidity Survey. Archives of General Psychiatry, 52(12), 1048-1060.
https://doi.org/10.1001/archpsyc.1995.03950240066012

最高裁第二小法廷. (2012). 平成 24.7.24 決定. 刑集　第 66 巻 8 号 709 頁.

2．研究の目的

本研究では、以下の 2 点を研究期間内に明らかにすることを目的とした。

1) 性暴力被害者の PTSD に対する急性期心理社会的プログラムの改良を行い、プログラムの有効性、安全性を明らかにする。

2) 性暴力被害者の精神鑑定の問題点を明らかにし、ガイドラインを策定する。

3．研究の方法

当初の計画は以下のようであった。

① 性暴力被害者の PTSD に対する急性期心理社会支援プログラム「SARA」の開発：
支援者等 5 名へのインタビューに基づき「SARA」の改良を行い、改良版 SARA については、準備のための観察研究を行い、さらに利用者、非利用者の二群に分類し観察研究を行った。

② 性暴力被害者の精神鑑定ガイドライン策定：
東京地方検察庁管内の最近 10 年間の被害者の精神鑑定書調査を行って実態を把握する。また性暴力被害者の精神鑑定書の自験例調査を行う。それらの実態に基づいて有識者会議でガイドライン策定にあたっての論点整理を行い、ガイドラインを策定する。

4．研究成果

総括としては①は順調に研究が進んだが、コロナ禍によってやや停滞があり、②については研究によって現状把握が可能になったために目標変更を余儀なくされたと言える。

性暴力被害者の PTSD に対する急性期心理社会支援プログラム「SARA」の開発①については、まずその前提となる性暴力被害者の臨床における評価、特徴について記

述的な報告を行った。ワンストップ支援センターからの紹介により精神科を受診した女性被害者 30 名のうち 25 名（83.3%）が急性ストレス障害または PTSD であった（淺野ら, 2017）。被害者の PTSD 症状は重く、解離症状、うつ症状も見られた。治療終結者は、被害後早期に精神科治療を行っている傾向が見られ、早期介入が回復を促進する可能性が示唆された。この実態に基づき、「性暴力被害者を対象とした PTSD の急性期治療/回復プログラムの開発および効果検証」（課題番号：26285158）において H28 年度に開始した性暴力被害者を対象とした急性期支援プログラム（Web プログラム）の検証を行った。H28 年 12 月～H29 年 11 月までの間に、ワンストップ支援センターと提携する都内精神科を受診した性暴力被害者 10 名を対象に当該プログラムを実施し、安全性および実行可能性が確認された（今野ら, 2018）。さらに 19 名の精神科を受診した性暴力被害者を対象として、SARA プログラムを実施し、その実施前後の心理検査結果、中断率、実施後の満足度の数値化を行い、国際学会で発表した(Konno et al., 2019)。

しかし、この年から始まったコロナ禍により、臨床研究の一部、特に構造化面接による評価や認知行動療法にかかわる部分が遅滞せざるを得なかった。ここまでで、SARA の心理教育を早期に挟みながら、継続して PTSD に特化した認知行動療法に移行することで、PTSD の患者、クライエントに対して定常的な治療ルートを設定することが可能になったが、コロナ禍により心理臨床がストップしたため 2020 年から 2021 年に関しては、研究が限定された。それでも SARA は安全に実施できることが確認され、有効性も推測されることから、厚労省の PTSD 研修などで臨床家に紹介している。

性暴力被害者の精神鑑定ガイドライン策定②については、これまでの判例分析により、裁判官の検討項目について分析した(山本ら, 2017)。さらに東京地検管内の刑事訴訟過程で被害者の精神鑑定が行われた事例に関する調査を行った（山本ら, 2019）。収集可能だったのは 9 例であった。調査の結果から、鑑定項目は①精神医学的所見と②犯罪心理学的所見に大別され、①は診断名、症状、診断の根拠、被害と発症の因果関係、障害の程度等であった。②は被害時／被害後の被害者の心理状況および反応・行動、抵抗できるか否かについての検討等であった。

自験例は 17 例収集され、東京地検管内の事例でも研究者らの予想に反して、研究者らの精神鑑定が過半を占めていた。このため有識の経験者のインタビュー調査は行わないこととし、むしろ自験例の調査を中心とするしかないことが分かった。東京地検管内の事例に関しては、学会で発表し、成果としては分担研究者である岡田らの編集による「刑事精神鑑定ハンドブック」の一章に、主に性犯罪被害者についての「刑事事件における被害者の鑑定」(小西ら, 2019)を執筆した。また精神鑑定にかかわる本調査研究全体の結果を書籍として刊行することにしたが、現在編集中である。さらに精神鑑定で対象となるトラウマの情動に関して、書籍の一章を担当した(小西, 2017)。ま

た、現在、法制審議会の刑事法（性犯罪関係）部会が開催されており(2020 から現在)、主任研究者は、法制審議会の臨時委員として参加し、精神鑑定や本研究の成果を用いて意見を述べている。

引用文献

淺野敬子, 正木智子, 今野理恵子, 山本このみ, 平川和子, 小西聖子. (2017). 性暴力被害者のためのワンストップ支援センターから精神科へ紹介された被害者の実情と治療の課題. トラウマティック・ストレス 15(1), 59-68.

今野理恵子, 淺野敬子, 山本このみ, 小西聖子. (2018). 性暴力被害者を対象としたPTSD の急性期治療／回復プログラムの開発－実行可能性の検証. 第 17 回日本トラウマティック・ストレス学会, 6 月 9 日-10 日, 別府.

Konno, R., Konishi, T., Asano, K., Y Yamamoto, K. (2019). Treatment of patients with PTSD with "SARA" Program: a feasibility study. 35th Annual Meeting, International Society for Traumatic Stress Studies, Nov. 14-18, Boston, Massachusetts, USA.

小西聖子, 山本このみ. (2019). 刑事事件における被害者の鑑定. In 五十嵐禎人, 岡田幸之(編). 刑事精神鑑定ハンドブック, 中山書店, pp. 90-100.

小西聖子. (2017). 複雑性トラウマと情動調節. In 奥山眞紀子, 三村將(編). 情動とトラウマ：制御の仕組みと治療・対応, 朝倉書店, pp. 15-27.

山本このみ, 小西聖子. (2017). 性犯罪事件の被害者に対する裁判官の検討項目に関する研究 : 最近の判例分析をもとに. 武蔵野大学心理臨床センター紀要 17, 1-11.

山本このみ, 小西聖子. (2019). 犯罪被害者精神鑑定の実態－東京地方検察庁管内の事例調査から. 被害者学研究 29, 20-34.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計18件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 小西 聖子	４．巻 62
２．論文標題 増大号特集 精神科診療のエビデンス-国内外の重要ガイドライン解説 第7章　心的外傷後ストレス障害/急性ストレス障害 Clinical Practice Guideline for the Treatment of Posttraumatic Stress Disorder(PTSD)(米国心理学会)	５．発行年 2020年
３．雑誌名 精神医学	６．最初と最後の頁 624-629
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11477/mf.1405206083	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山本このみ，小西聖子	４．巻 29
２．論文標題 犯罪被害者精神鑑定の実態－東京地方検察庁管内の事例調査から	５．発行年 2019年
３．雑誌名 被害者学研究	６．最初と最後の頁 20-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小西聖子	４．巻 62
２．論文標題 Clinical Practice Guideline for the Treatment of Posttraumatic Stress Disorder (PTSD)	５．発行年 2020年
３．雑誌名 精神医学	６．最初と最後の頁 624-629
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11477/mf.1405206083	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小西聖子	４．巻 18
２．論文標題 性犯罪に関する刑法改正［精神医学の立場から］	５．発行年 2020年
３．雑誌名 トラウマティック・ストレス	６．最初と最後の頁 64-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐々木真由美，小西聖子	4．巻 20
2．論文標題 性暴力被害女性の就労への復帰に関する文献研究	5．発行年 2020年
3．雑誌名 武蔵野大学心理臨床センター紀要	6．最初と最後の頁 14-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小西聖子	4．巻 2
2．論文標題 持続エクスポージャー法実践の展開と課題	5．発行年 2021年
3．雑誌名 武蔵野大学認知行動療法研究誌	6．最初と最後の頁 3-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山本このみ	4．巻 58
2．論文標題 性暴力被害者の被害時の行動・反応に関する先行調査のレビュー	5．発行年 2020年
3．雑誌名 罪と罰	6．最初と最後の頁 83-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takeda K, Yamashita S, Taniguchi G, Kuramochi I, Murakami M, Kashiwagi H, Hashimoto R, Hirabayashi N, Okada T.	4．巻 118
2．論文標題 Criminal victimization of people with epilepsy: Sixteen criminal judgments in Japan between 1990 and 2019	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Epilepsy & behavior	6．最初と最後の頁 107912
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.yebeh.2021.107912	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小西聖子	4．巻 39
2．論文標題 被害者の精神病理学	5．発行年 2018年
3．雑誌名 臨床精神病理	6．最初と最後の頁 142-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 今野理恵子，淺野敬子，正木智子，山本このみ,小西聖子	4．巻 第7号
2．論文標題 急性期性暴力被害者向けプログラムの開発―診療の補助としてのスマートフォンプログラムの作成―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 武蔵野大学人間科学研究所年報	6．最初と最後の頁 97-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 淺野敬子，正木智子，今野理恵子，山本このみ，平川和子，小西聖子	4．巻 15（1）
2．論文標題 性暴力被害者のためのワンストップ支援センターから精神科へ紹介された被害者の実情と治療の課題	5．発行年 2017年
3．雑誌名 トラウマティック・ストレス	6．最初と最後の頁 59-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小西聖子	4．巻 (2864)
2．論文標題 刑法改正と性暴力被害者支援	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本医事新報	6．最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中島聡美，白井明美，小西聖子	４．巻 32(1)
２．論文標題 犯罪被害者遺族のメンタルヘルスとレジリエンス	５．発行年 2017年
３．雑誌名 ストレス科学	６．最初と最後の頁 30-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小西聖子	４．巻 15(2)
２．論文標題 性暴力被害者への早期支援とケア	５．発行年 2017年
３．雑誌名 トラウマティック・ストレス	６．最初と最後の頁 99-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山本このみ，小西聖子	４．巻 17
２．論文標題 性犯罪事件の被害者に対する裁判官の検討項目に関する研究―最近の判例分析をもとに―	５．発行年 2017年
３．雑誌名 武蔵野大学心理臨床センター紀要	６．最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 茨木丈博、岡田幸之	４．巻 36(7)
２．論文標題 検察官の要請に対する精神科医としての協力	５．発行年 2021年
３．雑誌名 精神科治療学	６．最初と最後の頁 803-807
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中島聡美	4．巻 64(2)
2．論文標題 日本の犯罪被害者支援の動向	5．発行年 2022年
3．雑誌名 保健の科学	6．最初と最後の頁 76-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 柑本美和	4．巻 58(3)
2．論文標題 教員による児童生徒等へのわいせつ行為とその防止策	5．発行年 2021年
3．雑誌名 罪と罰	6．最初と最後の頁 75-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計15件（うち招待講演　4件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 Konno R, Konishi T, Asano K, Yamamoto K
2．発表標題 Treatment of patients with PTSD with “SARA” Program: a feasibility study.
3．学会等名 35th Annual Meeting, International Society for Traumatic Stress Studies（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 今野理恵子・淺野敬子・山本このみ・小西聖子
2．発表標題 性暴力被害者を対象としたPTSDの急性期治療／回復プログラムの開発－実行可能性の検証
3．学会等名 第17回日本トラウマティック・ストレス学会
4．発表年 2018年

〔図書〕　計3件

1．著者名 五十嵐禎人・岡田幸之	4．発行年 2019年
2．出版社 中山書店	5．総ページ数 279
3．書名 刑事精神鑑定ハンドブック	

1．著者名 奥山眞紀子，三村將　編，青木豊，飛鳥井望，大江美佐里，亀岡朋美，加茂登志子，栗山健一，小西聖子ほか13名	4．発行年 2017年
2．出版社 朝倉書店	5．総ページ数 244
3．書名 情動とトラウマ：制御の仕組みと治療・対応	

1．著者名 野呂浩史　編著、瀬戸あや、和田晃尚、森茂起、岩井圭司、ほか全22名	4．発行年 2021年
2．出版社 星和書店	5．総ページ数 296
3．書名 トラウマセラピーのためのアセスメントハンドブック	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	中島　聡美 (nakajima satomi) (20285753)	武蔵野大学・人間科学部・教授 (32680)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	堀越　勝 (horikoshi masaru) (60344850)	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・認知行動療法センター・センター長 (82611)	
研究分担者	岩井　圭司 (iwai keiji) (20263387)	兵庫教育大学・学校教育研究科・教授 (14503)	
研究分担者	岡田　幸之 (okada takayuki) (40282769)	東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・教授 (12602)	
研究分担者	柑本　美和 (koujimoto miwa) (30365689)	東海大学・法学部・教授 (32644)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関